


ご参加要項

申込方法

①下記申込書に必要事項にご記入の上、切り取らずにFAXにてお送りください。受領後、受付確認の連絡を致します。
 ※必ず参加者のメールアドレスをご記入ください。
 中産連ホームページ(www.chusanren.or.jp)、または右記のQRコードからお申込み頂けます。
 申込みが完了しますと、申込責任者のメールアドレスに「申込完了メール」が届きます。

②請求書は申込責任者宛へ郵送します。
フォーラム視聴用URLは、配信日前日までに「参加者のE-mailアドレス」へ送信致します。
 ※コンサルタント及び教育機関の方のお申込みはお断りしております。ご了承ください。



参加費

中産連会員	1名 49,500円	※2人目から半額(24,750円)とさせていただきます。
中産連会員外	1名 55,000円	※2人目から半額(27,500円)とさせていただきます。

※消費税込み

【1社複数名申込 特典】※1社2人以上のお申し込みの場合、2人目より半額とさせていただきます。

申込先

一般社団法人中部産業連盟 マネジメント研修事業部 安藤・野口
 〒461-8580 名古屋市東区白壁3-12-13 TEL:052-931-9826 FAX:0120-342-340

振込先

お振込みは、下記銀行口座へお願いいたします。
 三菱UFJ銀行 名古屋営業部 当座No.420222 <口座名：一般社団法人中部産業連盟>

ご参加に関する注意事項

- フォーラムURLはご参加者本人のみ使用可能です。再交付、複数名で共有することはご遠慮ください。
- オンライン配信動画の画面の撮影、録音、資料の複製等をご遠慮ください。
- フォーラム参加に必要なインターネット回線、インターネット回線に接続できる端末(パソコン、タブレット、スマートフォン等)、参加者自身で準備及び設定願います。
- ネット回線・システムトラブル等による視聴の遅延・中断等に関しては返金致しかねます。ご了承ください。

中産連×愛知県 自動車産業フォーラム2024(オンライン) 参加申込書

年 月 日

会社名 _____

〒 _____

所在地 _____ TEL _____ FAX _____

※E-mail アドレスは必ずご記入ください。

参加者 所属部課・役職名	参加者氏名(フリガナ)	E-mail アドレス

申込責任者 所属部課・役職名	申込責任者氏名(フリガナ)	E-mail アドレス

会社概要	業種(主要製品名)	資本金	従業員数	今回ご記入いただく個人情報、セミナー等の運営・情報提供(郵便、メール、FAX等)においてのみ使用致します。 詳細は当連盟HP(http://www.chusanren.or.jp/privacy/index.html)をご覧ください。同意のうえ、ご協力をお願い致します。関連情報が不要の場合には下記にシ点のご記入をお願い致します。 <input type="checkbox"/> セミナーなどの関連情報の案内を希望しない
		百万円	人	

オンライン配信

大手自動車メーカー、自動車部品メーカーが語る

中産連 × 愛知県

自動車産業フォーラム2024

最新技術講座

オンライン配信期間

2024年3月15日(金)13:00~3月29日(金)13:00

※録画配信のため配信期間中は、何度でもご視聴頂けます。

ご講演企業

TOYOTA

DENSO

MITSUBISHI MOTORS

自動車産業フォーラム 2024

MEIJOth
MEIJO UNIVERSITY 1926 - 2026

HYUNDAI

名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY

mazda

協賛：公益社団法人 自動車技術会、一般社団法人 日本自動車部品工業会 中日本支部、
 一般社団法人 日本金型工業会 中部支部、
 一般社団法人 愛知県溶接協会、中部経済新聞社

『中産連×愛知県 自動車産業フォーラム2024 最新技術講座』

講座のポイント

「自動車産業は今後、どのような方向に進むのか？」 「これから、どのような分野の技術開発やビジネスに力を入れるべきか？」

100年に一度とも言われる大変革期において、自動車産業は世界的にも力強い成長を遂げてきました。また、新型コロナウイルス感染症の影響により大きな打撃を受け、自動車産業を取り巻く環境も大きく変化しました。この前代未聞の局面の中で生き残るためには、自動車の技術が次にどこに向かっていくのかを常に考え、新たな視点から物事を捉える柔軟性が必要になります。

本講座では、自動車メーカー・部品メーカー(トヨタ自動車、マツダ、三菱自動車工業、デンソー、現代自動車)の技術開発の第一線で活躍するエキスパートと名古屋大学、名城大学、愛知県による産学官の各分野において次世代自動車の最新技術や今後の動向を解説いたします。自動車の明日の技術開発やビジネスチャンスを探っていただくため自動車産業に携わる皆様の一助となれば幸いです。企業の経営者、技術者、管理者の方々の積極的なご参加をお待ちいたしております。

コーディネータ



坂井 滋 氏
公益社団法人自動車技術会・技術者育成委員会 講師・アドバイザー
(元 日産自動車株式会社)

日産自動車に35年勤務し、シャシー部品の設計並びに多数の新車開発を行い、日産の商品体系戦略立案などの責任者、日産リバイバルプラン策定パイロットを経て、FR高級車群の事業統括責任者、開発部門のアウトソーシング推進責任者など幅広く経験。日産自動車技術顧問、熊本大学客員教授、熊本県産業技術センター所長、熊本県産業政策名誉顧問などを歴任し、自動車以外の産業技術の発展や大学工学教育に従事。現在は自動車技術会・技術者育成委員会の講師・アドバイザーとして自動車工学基礎講座の講義を担当。

受講対象者

- ・自動車産業に携わる企業の経営者、技術担当役員、管理職の方
- ・今後、自動車産業への参入を検討している企業の方

【配信期間】 2024年3月15日(金)13:00~3月29日(金)13:00

『最新 自動車産業の動向2024 ~「電動化」と愛知の自動車産業集積のゆくえ~』

◆名城大学 経営学部 教授 社会連携センター長・自動車部品電動化戦略研究センター長 田中 武憲 氏

世界的なカーボンニュートラルの潮流を背景に、自動車産業は「100年に一度」と呼ばれる歴史的な変革期の真っただ中にあり、自動車関連企業はその規模や製品領域にかかわらず、事業や戦略の再構築が求められます。本講演では、EV(BEV)を中心とした世界的な電動車の市場と政策の動向、BEVに関する技術動向、そして自動車・大手部品メーカーの戦略などの観点から、現在の課題と将来展望について具体的に説明する。

『愛知県の自動車産業支援について』

◆愛知県 経済産業局 産業部 産業振興課 課長 小池 玉置 氏

2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、世界中の国・地域が取組を進めています。我が国においても2030年度の温室効果ガス46%削減、2050年カーボンニュートラル達成という目標を掲げるとともに、自動車を始めとする各分野での成長戦略を検討しています。愛知県では、こうした国の方針と整合する形で、電動化の進展など自動車産業の構造変化を踏まえた様々な施策を展開しており、それらについて紹介する。

『電動化社会の実現に向けた三菱自動車の取り組み』

◆三菱自動車工業株式会社 EV・パワートレイン先行開発部 担当部長 山下 寛康 氏

気候変動抑制にむけてカーボンニュートラルの実現が求められるなか、自動車の電動化に求められる新たな役割と課題について解説。その中でプラグインハイブリッド(PHEV)と電気自動車(BEV)の技術を起点にし、各国・各地域のエネルギー事情に応じた電動化を推進する三菱自動車の取り組みと、電動車両を活用した新たな価値の提供について紹介する。

『Hyundai Motor GroupにおけるEV戦略 ~PEシステム開発戦略とバッテリーシステムの開発戦略~』

◆現代自動車株式会社 電動化設計センター EV駆動設計2チーム HAN DONGYEON(ハン・ドンヨン) 氏
バッテリー開発センター バッテリー戦略チーム LEE KANGHOON(イ・ガンフン) 氏

現代自動車グループは、人類の持続可能な未来のために、グローバル電気自動車産業の発展を加速させています。すべてのラインナップを電動化モデルに転換しており、次世代電気自動車専用プラットフォームと最適なバッテリーシステムなど競争力強化に力を集中しています。今回の講演では、現代自動車グループの電気自動車の中核技術である電気自動車PEシステムとバッテリーシステムの開発戦略について紹介する。

『日米欧中の各電動車(xEV)の分解解析から読み解く 車載応用技術最前線と2030年の自動車像』

◆名古屋大学 未来材料・システム研究所 教授 山本 真義 氏

日米欧中の各xEVの分解解析により、技術要求の高い車載用電気駆動技術要素を、材料、構成要素(パワー半導体、磁性部品、キャパシタ、センサ等)、要素システム(インバーター、バッテリー充電器、DC-DCコンバーター等)、全体システムの各技術階層に分類して紹介し、上位システムが各階層技術分野に求める性能要求仕様を揭示し、2030年の電動車(xEV)の社会実装におけるあるべき姿を予測し、議論する。

『進化し続けるモビリティとこれからの取組み』

◆株式会社デンソー パワートレインシステム統括部 部長 後藤田 優仁 氏

1908年のT型フォードから始まり、現在の電動車まで進化してきたモビリティ。その在り方は取り巻く社会環境の変化に大きく影響を受けてきた。そして現在、BEVが急激に拡大している。その中で従来の内燃機搭載車からBEVで何がかわるのか、デンソーが考えるこれからのモビリティに必要な物は何か。日本のモノづくりに与える影響について考える。

『MAZDAにおけるMBD深化とJAMBE(MBD推進センタ)における SURIWASE2.0最前線』

◆マツダ株式会社 R&D戦略企画本部/MDI&IT本部 技監 足立 智彦 氏

自動車産業に突き付けられた100年に一度の大変革時代、如何にスリムかつイノベティブな開発が出来るようになるかが求められている。その処方箋として、MAZDAはMBDを車開発全体へ適用してきており、経産省が提唱するSURIWASE2.0を目指している。MAZDAでの生き残りを掛けた価値創造と、支えるMBD最新状況を紹介し、併せてSURIWASE2.0実現に必須のモデル流通を推進する団体として21年に立ち上がったJAMBE(MBD推進センター)での活動を紹介する。

『水素社会実現に向けたトヨタの水素・燃料電池の取組み』

◆トヨタ自動車株式会社 水素ファクトリー 水素事業推進室 担当部長 折橋 信行 氏

カーボンニュートラルの実現に向けて水素の利活用は重要な要素のひとつである。水素を活用する水素社会の実現に向けたトヨタの取組みを紹介する。具体的には、燃料電池自動車MIRAIの技術をベースとし、様々なアプリケーションへの適用を目指した「FCユニットのモジュール化」、豊富な電力を活かした「FCEVの新価値創造」、水から水素を作る「水電解装置」の開発等について紹介する。